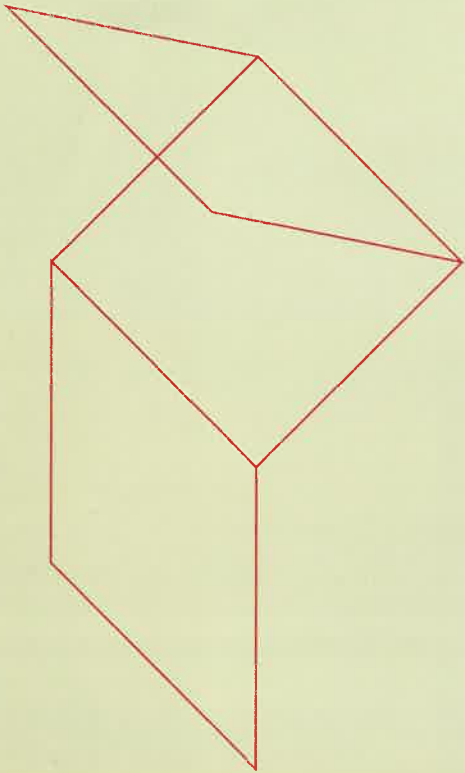


1996年度
くまもと
アートポリス
推進賞

KUMAMOTO ARTPOLIS

K U M A M O T O A R T P O L I S

熊本県



■ 本年度のくまもとアートポリス推進賞は、過去7年間の作品が一括対象となった昨年度とは違って、過去5年間の作品が選考の対象だったために、応募作品数が少ないことが予想された。然し、昨年度の審査が極めて高い水準で行われたにもかかわらず、今回も22点もの応募があったことは、優れた建築作品を造ることに対する県民の意識が高くなっている結果として評価することが出来る。

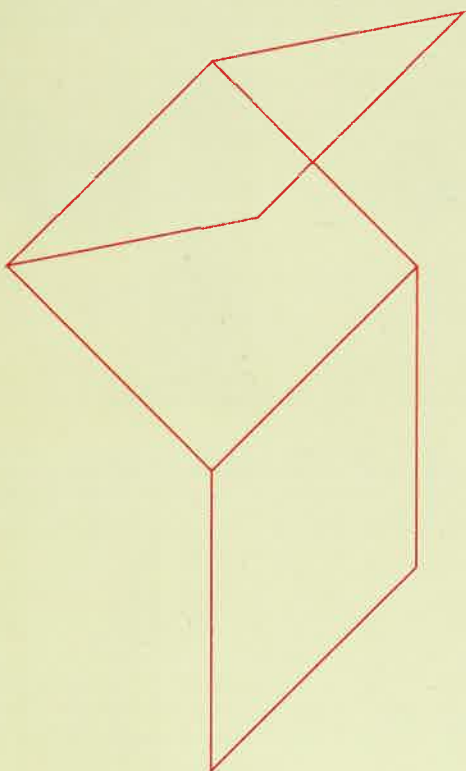
■ 選考に当たっては、昨年度と同様に、今回も東京と熊本で2回の書類審査を行い、1次審査を通過した14点を候補に選び、2月1日から4日まで現地審査を行った。引き続き行われた最終審査に於いては、推進賞には、社会福祉法人慈愛園ノーマンホームが、同選賞には、阿蘇白水温泉「瑠璃」、及び、ふるさとセンター Y・BOXが選ばれた。受賞の栄に輝かれたそれぞれの事業主、設計者、施工者、管理者など関係の方々から心からお祝いを申し上げる次第である。なお、次頁以降に選考委員会での議論を踏まえて、各委員会からの短いコメントをお願いしている。

第2回「くまもとアートポリス推進賞」の選考を終えて

選考委員長 堀内 清治

■ 今回の審査に当たって、二つの問題があった。その一つは、一次選考で選ばれた作品の一つが山間部にあって、現地審査の前後は積雪の為に訪ねることが出来なかったことである。この作品については、止むを得ず審議未了の扱いとし、後日改めて現地審査を実行して受賞の可否を決めることとし、今回の審議の対象からは外すこととした。若し後日の現地審査で受賞が決まれば、来年度の推進賞と併せて発表することになる。なお、今後このような問題が起こらないように、審査の日程を再検討することになった。

■ 今一つは、最終審査に最後まで残りながら、設計のコンセプト、構造等に、既に発表された作品に極めてよく似た作品のあることが指摘され、選から外れた作品があったことである。この問題については、「建築には著作権がないと考えるべきで、優れた作品を多少模倣したからといって非難すべきではない。」という意見と、「単に似た建物を造ったと言うだけなら良いかも知れないが、賞の対象として推薦する以上、やはりオリジナリティーは尊重されるべきである。」という意見が対立した。今回の選考委員会は後者の意見に従ったことになる。



【くまもとアートポリス推進賞】

社会福祉法人

慈愛園 ノーマンホーム



事業主：社会福祉法人 慈愛園
設計者：一級建築士事務所 かわつひろし建築工房
施工者：安藤建設株式会社 九州支店
所在地：熊本市神水
竣工：平成7年8月
用途：託児施設 構造：木造 階数：平家建
敷地面積：29.228㎡ 建築面積：263㎡ 延床面積：202㎡



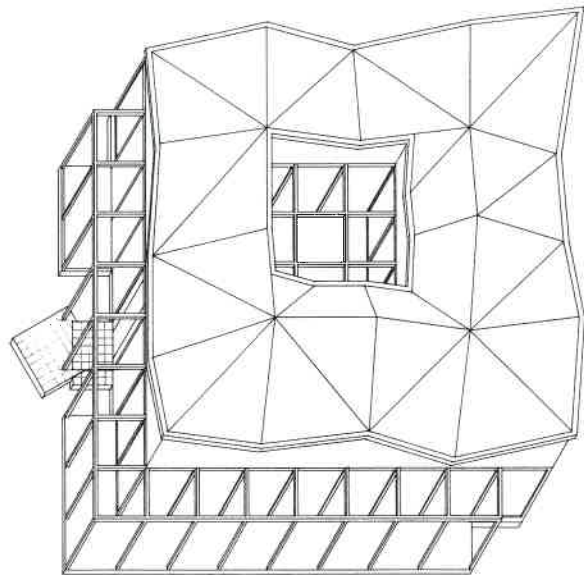
社会福祉法人 慈愛園 ノーマンホーム

The architect has designed this building with great care and affection. He has interpreted the functional requirements in ways that are both poetic and highly intelligent, and he has assembled the building with great technical skill and inventiveness.

The design has a 'light', 'joyful' and 'playful' character—which is appropriate for a nursery—but the architect has treated the children with respect, and has surrounded them with an elegant and sophisticated architecture which can stimulate the senses and minds of the children and the adult staff.

This is a small building, which appears to be very simple. But, it is, in fact, extremely rich and complex in concept. Very cleverly, the small-scale structural grid and the high 'floating' roof overlap children scale and adult scale, and individual space and communal space, and the transparency of the building unites its activities with the life of the surrounding community of company staff.

(トム・ヘネガン)

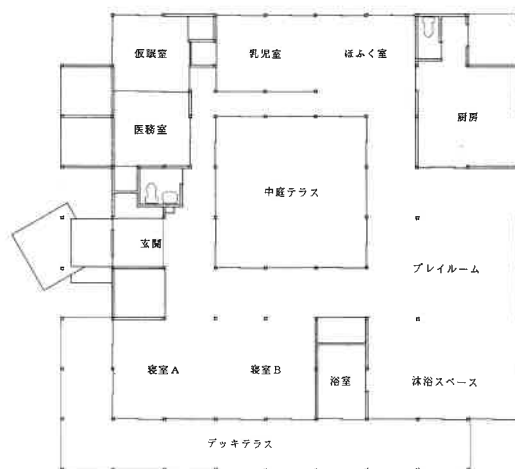


(翻訳)

十分な心配りと愛情を以て設計されている。設計者は、機能上の要件を詩的であると同時にかなり知的な手法で分析し、優れた技量と創作力で建物をまとめている。

デザインは、「明る」く、「楽し」く、「はしゃぐ」ような特徴が見られるが—これらの特徴は託児所に相応しいものである—しかし、設計者は子供たちに敬意をもって接し、子供たちと、そこで働く職員双方のセンスと心を刺激しうる優美で洗練された建築で包み込んだ。

これは小さな建物であり、非常にシンプルなつくりである。しかし、実際はそのコンセプトは極めて豊かで、且つ、複雑なものになっている。小スケールの構造グリッドと高く「浮かんだ」屋根が、子供のスケールと大人のスケール、個人の空間と共同の空間を実にうまく重ね合わせており、建物の透明性は当園の活動と周辺のコミュニティとを結びつけている。



平面図



【くまもとアートポリス推進賞選賞】

阿蘇白水温泉

『瑠璃』

事業主：白水村
設計者：杉本洋文 / 株式会社 計画・環境建築
施工者：住友建設 株式会社 九州支店
有限会社 後藤産業
株式会社 九電工

所在地：阿蘇郡白水村

竣工：平成8年3月

用途：温泉・宿泊交流施設

構造：木造(一部RC造) 階数：地上2階

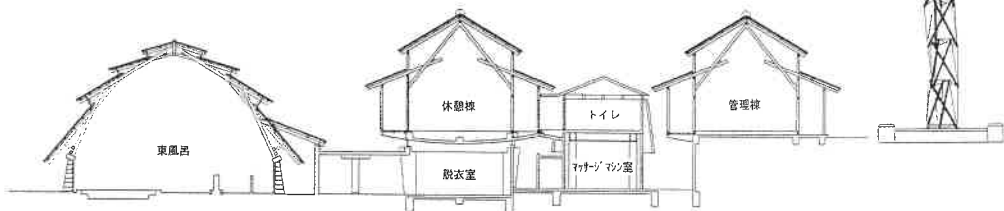
敷地面積：17.013㎡ 建築面積：2.981㎡

延床面積：2.908㎡

阿蘇白水村の温泉資源を活用したこの施設は、シンボリックな木造タワーを中心にして第一期の温泉施設、第二期の宿泊交流施設が直交する軸線をとって配置されている。

ドーム状の大屋根を冠る浴場をはじめとし、分棟の各施設は木という素材の特徴を充分活かした架構となっている。地域のモノ(戦後植林された木材)とヒト(さまざまな分野の職人達の協力)をひとつにまとめ上げて造られたこの施設は、これからの地方の建築づくりのモデルとして高く評価されてよい。

(早川邦彦)



断面図



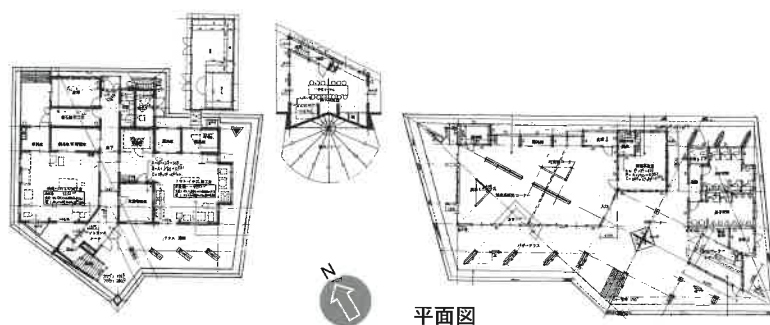
ふるさとセンター Y・BOX

事業主：横島町
設計者：設計計画・石丸事務所
施工者：株式会社 多々良
 有限会社 万両工務店
 島村建設 株式会社
管理者：有限会社 横島町特産物振興協会
所在地：玉名郡横島町
竣工：平成8年3月 用途：特産物販売・加工
構造：木造(一部RC造) 階数：地上2階
敷地面積：4,273㎡ 建築面積：884㎡
延床面積：1,050㎡



有明海に面した広々とした干拓地の町、横島の地域づくりの拠点として作られた施設である。イチゴ、トマト、シンビジューム、アサリなどの特産物の直売所に加えて、農産加工研修センターやイベント広場なども備えている。国道501号に面した施設群は、横島のYのイメージでもある三角形を組み合わせた様々な勾配の屋根や柱列が、リズムカルに展開して人目を引きつける。特に町のシンボルカラーであるイチゴの赤を効果的に使った優れた色彩感覚が高く評価された。

(久野啓介)



募集要項

■表彰対象

平成3年4月1日から平成8年3月31日までに竣工（改造、改修、修復を含む）した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等（くまもとアートポリス参加プロジェクト作品及び県の施設を除く）とします。

■選考基準

本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工及び施設の運用等に関する総合評価に基づいて行います。

■評価のポイント

- ①優れたデザインを有しているもの
- ②新しい技術的提案や工法の改善がなされているもの
- ③良好な施工が行われているもの
- ④ひとや環境にやさしい配慮がなされているもの
- ⑤施設の活用に創意工夫がみられるもの
- ⑥維持・管理が良好なもの
- ⑦地域づくりに寄与しているもの

■賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」「同選賞」とします。推進賞は5点程度、推進賞選賞は適宜設けます。それぞれの事業主（必要に応じて管理者を含む）、設計者、施工者に知事が表彰状を贈ります。また、推進賞には事業主に銘板を贈ります。

■応募資格

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

本県では、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化の向上を図り、豊かな地域づくりに貢献するため「くまもとアートポリス」構想を推進しておりますが、県内各地の優れた建造物等について、より多くの県民の皆様方の建築文化に対するご理解を深めていただくために、「くまもとアートポリス推進賞」を設けております。

この賞は、優れたデザイン、技術的提案、地域づくりへの貢献等がなされていることを総合的に評価して選考されるものです。

選考委員会

委員長	堀内清治(熊本工業大学教授)
委員	桐敷真次郎(東京家政学院大学教授)
委員	陣内ヒロミ(慈愛園パウラスホーム施設長)
委員	トム・ヘネガン(アーキテクチャーファクトリー代表)
委員	永田 求(熊本県文化協会常務理事)
委員	早川邦彦(早川邦彦建築研究室代表)
委員	久野啓介(熊本日日新聞社論説委員長)
委員	藤井輝彰(熊本経済同友会副代表幹事)
委員	渡辺定夫(工学院大学教授)

選考経過

審査委員会	平成8年 8月26日 募集要項の検討
募 集	平成8年 9月26日～11月5日 応募総数：22件
書類審査	平成8年12月 6日(東京)、平成8年12月12日(熊本)
現地審査	平成9年 2月 1日～4日 現地審査件数：13件
最終審査	平成9年 2月 4日 受賞件数：3件
表彰式	平成9年 3月25日

熊本県土木部建築課内

〒862-70 熊本市水前寺6-18-1

くまもとアートポリス事務局

TEL.096-383-1111(内線6230)

FAX.096-384-9820